

2012 ミニ・ディスクロージャー

見てわかる“しんきん”



新庄信用金庫ステンドグラス「北の春」は、当金庫の本店新築時に郷土出身の洋画家、近岡善次郎画伯の原画・監修によって制作されたものです。

「北国に春が来て、遠山にまだ雪が残っているのに梅、桃、桜が同時に咲き出し、少し遅れてサクランボの緑がかった白い花が咲く、それが雪のやっとな消えたかげろうのたなびく野を埋める。働く人も春の野に出ることは喜びである。春風を胸いっぱい吸って、本当に生きている喜びを味わう。この気持ちの良さは、東北生まれの私にとって最高の喜びとして一生忘れず思い続けることだろう。」

基本方針

- 郷土の繁栄に心から奉仕する
- 内容の堅実な金庫にする
- 和顔愛語に満ちた
明朗な庫風を創る
- 待遇の優れた金庫にする



ごあいさつ

皆様には、平素より私ども信用金庫をお引立ていただきまして、誠にありがとうございます。

この「2012年度版 ミニ・ディスクロージャー誌」は当金庫第93期（平成23年度）の決算の状況と事業の概況をご報告するとともに、当金庫の内容等をわかりやすくご説明申し上げるために作成いたしました。ぜひ、ご覧いただきますようお願い申し上げます。

平成23年度の経済環境は、一部欧州諸国の債務問題等を背景に、その信用不安が世界経済全体に波及しましたが、年明け以降は、ギリシャへの追加支援合意に伴う国際金融市場の緊張が緩和するとともに、日本銀行の金融緩和強化等もあり、年度末には日経平均が1万円台を回復しました。

一方で、東日本大震災を契機とする電力供給の制約、急速な円高の進行等、国内産業の空洞化が徐々に進み、その影響は、地域を基盤とする地場産業や商店等に対しても大変厳しい経営を余儀なくしております。そうした状況を受け、従来にも増して相互扶助の協同組織という立場である信用金庫への期待も大きくなってきております。

以上のように厳しい経営環境、市場動向のもと、今期の業績は次のとおりとなりました。

預金については、期末残高が前期比22.1百万円増加の59.91.7百万円となり、平残ベースで前期比2.50.3百万円増加しております。

また貸出金は、消費者ローンを中心に既存・新規共に積極的アプローチを行った結果、期末残高については前期比25.7百万円増の38.44.5百万円となっております。一般企業の売上高に相当する経営収益は、預け金・貸出金・資金運用利回りの低下により前期比5.1百万円減少の1.82.1百万円となり、コア業務純益ベースで49.7百万円、当期純利益で6.4百万円の計上となりました。

尚、自己資本比率については、前期より0.16ポイント低下し、10.62%となりました。

当地域では今後とも厳しい経済環境が続くものと予想されますが、地元になくてはならない信用金庫でありつづける為、「お客様との共生、地域との共生」を旗印に、信頼に値する健全性と強い経営基盤の確立を図りながら、個人・法人にかかわらず取引先の増加に努め、地元で集めた預金は地元への貸出で還元するという金庫の地産地消を高め、地元経済の活性化につなげたいと考えております。

以上ご報告申し上げますとともに、会員の皆様のご理解、ご協力を衷心よりお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

平成24年8月

理事長 井上 洋一郎

Q1 決算の状況について

A

おかげさまで23年度決算では、49.7百万円のコア業務純益（本業での利益）、および6.4百万円の当期純利益を計上することができました。

●資産内容の健全化を第一に考えました。

地域経済において、中小企業は中央との格差拡大が続いており、金融機関は全般的に、貸出金を中心とした効率的な資金運用が難しく、収益環境は厳しさを増しております。

平成24年3月末の業務は、**預金残高59.9億円（前年比0.3%増）、貸出金残高38.4億円（前年比0.6%増）**となりました。

収益面では、資産内容の一層の健全化に向け、貸出金の償却1百万円、貸倒引当金の繰入1.9百万円を実施したことで、**経常利益7.6百万円、当期純利益6.4百万円**、本業での利益を示す**コア業務純益は49.7百万円**となりました。

(百万円)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	第91期	第92期	第93期
出資総額	208	209	213
業務純益	458	331	231
コア業務純益	458	412	497
経常利益	230	91	76
当期純利益	187	124	64

〈しんきん〉のコストパフォーマンス

当金庫の**オーバーヘッドレシオ（OHR）**は、21年度は69.1%、22年度は72.8%、23年度は67.7%となっております。経営合理化・効率化の指標としてよく使われるOHRは、「**コア業務粗利益をあげるためにどれくらいの経費を使ったか？**」を比率で示したものです。つまり、当金庫は100円の粗利益をあげるために使う経費が、6.9円→7.2円→6.7円と推移しております。23年度に比率が下降したのは、経費の減少やコア業務純益の増加等によるものであり、今後、ムダのないスリムな経営を目指してまいります。

預金・貸出金の推移

●預金残高の推移

(億円)

	平成20年 3月末	平成21年 3月末	平成22年 3月末	平成23年 3月末	平成24年 3月末
個人預金	481	482	485	512	505
法人預金	74	81	78	84	93
合計	556	564	563	596	599

個人預金は減少しましたが法人預金が増加し、期末残高59.9億円、前期比2億円増となりました。

●貸出金・代理貸付残高の推移

(億円)

	平成20年 3月末	平成21年 3月末	平成22年 3月末	平成23年 3月末	平成24年 3月末
貸出金残高	396	401	398	381	384
代理貸付残高	36	29	26	23	19
合計	432	431	425	405	403

貸出金残高については消費者ローンを中心に積極的アプローチを行った結果、期末残高が前期比2億円増となりました。

Q2 自己資本比率について

A 10.62%と10%台の水準を維持。「健全で問題のない金融機関」の国内基準を大きく上回る水準となっています。

●新BIS規制について

従来、自己資本比率は、自己資本の総額を分子とし、貸出金等の資産総額を分母として計算されてきましたが、近年の金融技術の進展等により、金融機関の抱えているリスクも一段と多様化・複雑化していることから、新BIS規制が導入されました。新BIS規制では、自己資本比率を算出する際分母において信用リスク・アセットに加え、「**オペレーショナル・リスク相当額を8%で割って得た額**」を計上しております。オペレーショナル・リスクとは、システム障害や不祥事、事務ミス等によって被るリスクのことです。その相当額の計算に当たっては「**基礎的手法**」を当金庫で採用し、1年間の相利益に15%を乗じた額の直近3年間の平均値を用いております。また、信用リスク・アセットの計算に当たっては「**標準的手法**」を採用しております。ここでは、従来よりも精緻化された資産項目の所定のリスク・ウェイト（損失が発生する危険度に応じた掛け目）を用いて、より細かく算出しております。

●自己資本比率は金融機関の安全性を示す判断指標のひとつです。

自己資本比率は金融機関の安全性・健全性を示す指標のひとつで、資産に対する自己資本（出資金・利益準備金・積立金など）の割合、つまり「いざというときの備えの水準」を表しています。信用金庫のように国内のみで営業活動を行う金融機関については**4%あれば経営体質が健全であると判断**されています。

●自己資本比率は10.62%と10%台を維持。「健全で問題のない金融機関」の国内基準を大きく上回る水準です。

当金庫は経営の健全性向上のために、自己資本の充実を重点課題のひとつとして、毎年の収益の中から、安定した内部留保の蓄積を行ってまいりました。23年度は資産内容の一層の健全化を図るため、償却・引当処理を行い、自己資本比率は**10.62%**と国内基準である4%を大きく上回り、健全性を保持しております。

Q3 不良債権の状況について

A 従来にも増して厳格にルールを守り、適正な処理を行っています。

●積極的な不良債権処理を行っています。

金融機関は、企業の運転資金や設備資金、また個人のお客様向けに各種のローンなどを取り扱っていますが、融資先が不幸にも経営不振になったり倒産したりすると、貸出金の回収ができなくなる場合があります。そうなる可能性の高い貸出金を不良債権といいます。

金融機関は、経営の健全性を高めるために、資産の健全度を自己査定によって評価し、それに基づき不良債権の適正な償却や引当をすることが義務付けられております。

当金庫は**資産の健全化を経営の最重要課題と位置づけ**、厳格な自己査定基準に基づき適正な償却・引当を行うなど、**不良債権の一掃を図っております**。

24年3月期の状況

(百万円)		(百万円)	
リスク管理債権	金額	金融再生法開示債権	金額
・破綻先債権	1,018	・破産更正債権及びこれらに準ずる債権	1,793
・延滞債権	1,506	・危険債権	734
・3ヶ月以上延滞債権	—	・要管理債権	937
・貸出条件緩和債権	937	・正常債権	35,599
合 計	3,462	合 計	39,065

金融再生法に基づく不良債権とその保全状況

●金融再生法上の不良債権計 3,465百万円

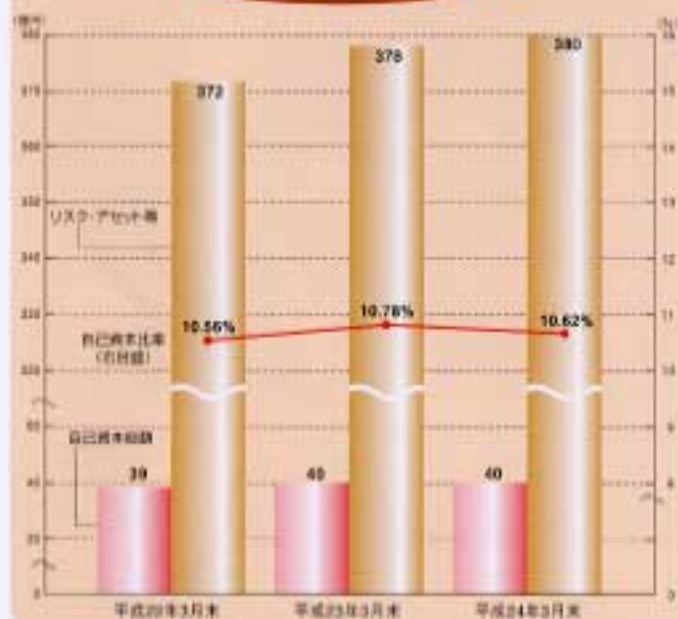


保全額計 2,946百万円



保全率 85.03% (2,946÷3,465×100=85.03%)

自己資本比率の推移



経営健全性の指標「自己資本比率（新BIS規制）」は

自己資本比率 = $\frac{\text{自己資本総額}}{\text{信用リスク・アセット+オペレーショナル・リスク相当額を8%で割って得た額}} \times 100(\%)$

10.62% 国内基準4%の **2.6倍** 高い安全性を確保しています。

中小零細企業に携わる方々や、個人のお客様の円滑な金融を担うことが地域金融機関である信用金庫の最も大切な役割ですから、経済状況によっては、ある程度の不良債権の発生はやむを得ないと考えております。

上のグラフにあるとおり、不良債権合計34億円のうち29億円は貸倒引当金（14億円）および担保・優良保証等（14億円）により保全されております。

Q4 投資信託について

A 長引く超低金利と将来受取る年金や退職金に対する不安。このような時代にあってもお金を貯めるだけでなく、**殖やす**ことも大切です。今まで**殖やす**ことに興味なかった方も確定利付きの預貯金に加え、将来に向けて中長期的な運用に適している投資信託を利用して、バランスのとれた資産作りを考えてみませんか。

- 若いあなたには、将来に備えた資産作りの工夫が大切。
- 働き盛りのあなたには、資産を効率的に殖やす工夫が大切。
- 第2の人生を考えているあなたには、資産をより安全に管理していく工夫が大切。

Q5 キャッシュカード被害について

A 最近キャッシュカードの偽造・盗難により預金引き出される被害が増えておりますので、お客様におかれましては次の点にご注意ください。

- 暗証番号は、他人に知られないよう、十分注意してください。とくに、暗証番号を記載したメモや暗証番号を推測される手摺りとなるものは、キャッシュカードと一緒に保管しないでください。
- 生年月日、ご自宅の電話番号、自動車ナンバーなど、他人から推測されやすい番号を暗証番号とすることは避けてください。
- 暗証番号は定期的に変更することをお勧めいたします。当金庫のATM（現金自動入出金機）で変更が可能です。
- 当金庫以外の金融機関のキャッシュカードを利用される場合には、当金庫のキャッシュカードの暗証番号と同じ暗証番号を利用しないことをお勧めいたします。また、キャッシュカードの暗証番号を貴重品ボックスなど他のサービスを利用する際の暗証番号として使うことは避けてください。
- ATM（現金自動入出金機）などを利用される場合は、暗証番号を後ろから読み見られたりしないようにご注意ください。
- 当金庫職員などが訪問や電話などでキャッシュカードの暗証番号をお尋ねすることはありません。不審な点がある場合には、ただちにお取り引きしている店舗にご照会ください。

Q6 業界全体の健全性について

A 信用金庫の中央機関として運用資産約29兆円の「信金中央金庫（信金中金）」がバックアップしています。また独自のセーフティー・ネットにより、業界全体の健全性の向上にも努力しています。

- 健全性を維持するために、他の業界には見られない信用金庫独自の安全網を作り上げています。

金融機関の破綻を未然に防止する手立てとして、金融当局による「早期不正措置」がありますが、信用金庫業界では、これに加えて独自の安全網を用意しています。それは、「信金中金」が個々の信用金庫の財務内容等を毎月ごまかくチェックし、問題がある場合には改善のための指導や、支援を行う「信用金庫経営力強化制度」です。金融庁の早期不正措置の発動を持たずに、自主的に経営内容を改善するために、業界独自の仕組みを作り上げているのです。

もっと知ってほしい、その実力。信用金庫と信金中金。

※信用金庫本部統計数は2013年3月末現在のもので、
※信金中金本部統計数は2013年2月末現在のもので、



信用金庫と信金中金は、手を携えて地域経済の繁栄に貢献しています。

地域経済のパートナー
【信用金庫】

- 豊富な預金量
……………約122兆円
- 巨大なネットワーク
全国271金庫、7,535店舗
- Face to Faceの事業展開
……………従業員数約11万人
- 多数の出資者
……………約931万人

信用金庫のセントラルバンク
【信金中金】

- 運用資産
……………約29兆円
- 高い自己資本比率(単体)
……………32.54%
- 低い不良債権比率
……………0.68%
- 高い格付
……………AA(格付機関JCR)

トピックス 新庄まつり絵柄湯呑プレゼント「ちえれんご定期預金」発売

しんせんサマーキャンペーン
ちえれんご定期預金

プレゼント
チャレンジ

キャンペーン期間中新規20万円以上の定期預金にお預け入れの方にもれなく、新庄市出身・近隣圏出身の方の新庄まつり絵柄湯呑をプレゼント!

●申込期間/平成24年6月15日～平成24年8月31日まで

●対象 個人/法人/法人の公明債

●利率 新設/更新/定期預金/入札のスーパー定期預金、大口定期預金

●申込手数料/個人:1年未満の2年未満の3年未満/法人:1年未満の3年未満

●申込方法

●お問い合わせ先

新庄信用金庫



当金庫では、平成21年に「新庄まつりの山車行事」が、文部科学大臣から国の「重要無形民俗文化財」に指定されたことを記念いたしまして、新庄まつりを定期預金で応援するキャンペーンを行い、お預けいただいた定期預金残高の0.05%に相当する100万円を新庄まつり委員会へ寄贈いたしました。

今年度は、「ちえれんご定期預金」を発売いたしまして、新庄まつりを応援しております。預金していただいた方には、新庄出身である近岡善次郎画伯の新庄まつり絵柄入り湯呑をプレゼントいたします。

その他、この定期預金の詳しい内容は、窓口にお問い合わせ下さい。

新庄信用金庫

※より詳しい内容は各営業所に信用金庫法に基づくディスクロージャー誌「新庄信用金庫の現状」を備えていますので、ご覧ください。
ホームページ <http://www.shinjosk.co.jp/>